# 令和７年度　東京都立大崎高等学校　学校経営報告

（定　時　制　課　程）

校　長　　大塚　香

## １　学校運営の評価

### （１）成果となった実績

ア　「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、健全なライフワーク・バランスを推進した。特に、企画調整会議や職員会議等は時間短縮（1 時間以内）する工夫を行った。

イ　学校運営連絡協議会での外部意見や学校評価等を分析・検討し、外部からの視点も十分に取り入れて学校経営にあたった。

ウ　職員室及び教材室等の整理整頓とクリーンデスクの徹底を図り、整理整頓された見通しの良い執務室を実現することにより、個人情報紛失事故を未然に防止するとともに教育環境の整備を図った。

エ　若手教員の不安や悩みを学校の取り組むべき課題として話題にすることで、打合せ時のコミュニケーションを活発化させ、ベテランとの双方向型人材育成を図った。

オ　夜間高校の新たな魅力を効果的に発信させるため、若手教員の新しい学校観を活用して学校案内・ホームページを作成させた。

### （２）課題となった問題点

ア　企画調整会議を中心に各分掌の業務を調整して、毎日の全員打合せで連携を深めてきたが、各種委員会の業務が滞ることがある。一部の職員に業務の負担が大きくなっている。

イ　病気休職者の対応で、後任補充できない期間の教科及び分掌への支援体制を解消する。

ウ　特別支援学校との連携した専門性向上のための教員向け悉皆研修を実施した。

エ　夜間高校の魅力を効果的に伝える、中学校教員を対象とした体験型説明会や長期休業中の中学校訪問実施を検討し、受検者増へとつなげる。

## ２　学習指導の評価

### （１）成果となった実績

ア　新学習指導要領の意義を踏まえ、生徒の実態等に即した指導内容・方法の改善を図った。特に、課題の発見と解決に向けて主体的･協働的に学ぶ学習など探究的な学習の視点から授業改善を図った。

イ　授業の開始から終了まで、学びのかたちにこだわらない生徒との対話を大切にした学習環境の構築を行っている。学ぶものと教える者との信頼を絆に、学び直しの意欲を効果的に高めることができた。また、「分かる授業」を目的とした電子黒板やＩＣＴタブレットを使用しての授業を積極的に実施した。

ウ　リアテンダント採点システムによる定期考査の採点を実施し、業務の効率化と生徒の学力の分析を図った。採点ミスもなくなり、分析に基づいて授業改善を図る教員

も出てきた。

エ　４年制大学進学（一般受験）を目指す生徒への計画的な補講・補習を実施し、学びのニーズに適切に対応した。
令和７年度４年制大学一般受験合格者１名　日本経済大学経営学部経営学科
（実績：東京都市大学、明星大学、神奈川大学、芝浦工業大学）

オ　成育歴が複雑であったり、中学校での学力定着に課題があったり多様な生徒が在籍している個々の学力を教員一人一人が把握しながら基礎・基本の学習を重視して授業の実践に取り組んだ。学校評価アンケートでは、「私は、授業がよく分かる」の授業理解に関する質問に対して肯定的（そう思う・ややそう思う）に回答した生徒は82.2%（昨年は79.0%）、「大崎の先生は分かりやすく丁寧に勉強を教えてくれる」の授業満足に関する質問に対して肯定的（そう思う・ややそう思う）に回答した生徒は96.5%（昨年は95.0%）となっており、多くの生徒が基礎・基本の定着を図ろうとする授業内容や学習指導を認めている。

カ　教員・生徒双方が非常時にオンライン学習を円滑に実施できるよう、オンライン学習の訓練である「都立学校オンライン学習デー」（TEAMSを利用した双方向コミュニケーション方式を採用）を年１回実施した。

キ　夜間高校に在籍する生徒にとって、心身の健康面を支える重要な食育指導を管理栄養士主導で給食中の５分間指導を４８回実施し、規則正しい食習慣と健全な日常生活の享受が不可分な関係であることの共通理解を図った。

ク　リアテンダント採点システムによる定期考査の採点を実施し、業務の効率化と生徒の学力の分析を行った。

**（２）課題となった問題点**

ア　学習障害や発達障害の傾向のある生徒への個別最適な学習支援方法を検討している。関係諸機関との時宜的なタイアップも視野に入れて検討する。

イ　生徒の興味・関心を効果的に高めると期待できる校内無線LANを活用した授業を推進する。

ウ　学習到達度をフィードバックするための評価評定に関して、各教科担当が当該教科の特性を踏まえた上で、明確な基準や視点に基づき生徒や保護者に対して説明責任が果たせることを徹底する。

## ３　生活指導

**（１）成果となった実績**

ア　全教員参加型のグループエンカウンターを年２回実施し、生徒の生活課題把握に努めるとともに、新入生との親睦を図ることで生徒の抱く教師との心的距離を縮めた。

イ　体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて学年を超えた連絡体制を構築した。また、スクールカウンセラーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立した。

ウ　学校評価アンケートでは、「私には気軽に相談できる先生がいる」の相談体制に関する質問に対して肯定的（そう思う・ややそう思う）に回答した生徒は78.6%（昨年は79.2%）、「学校の生活指導は正しく行われている」の生活指導体制に関する質問に対して肯定的（そう思う・ややそう思う）に回答した生徒は89.2%（昨年は95.0%）であった。昨年度よりも若干、肯定的な意見が減少しているもの

の、これはおおむね生徒が教員による平生の生活指導及びその体制について受容していることを表している。

エ　毎日の打ち合わせで生徒情報の共有を行っている。また、生徒情報については、校内ネットワーク内のフォルダに入力しながら、教員間で素早く共有している。また、スクールカウンセラーによる教員対象の悉皆研修を年１回実施し、生徒の生命安全に向けて組織的な対応力の向上を図っている。校内外自死事故：０件

オ　生活指導部の主催によるセーフティ教室、避難訓練、交通安全教室を計画的に企画・実施し、健康・安全の意識を高めた。

カ　年２回の授業公開以外に、外部の方に学校公開する機会をなるべく多く創出する目的で、１月と３月に中学生対象の授業公開を行う。本校の生徒にとっては、授業公開で外部との接触を行うことができ、社会のルールやマナーを知ることや自他を尊重する心の大切さを学ぶ契機となっている。

**（２）課題となった問題点**

ア　スクールサポーター（地域警察署）との連携や、保護者、地域住民との協力体制の確立がまだ十分ではない。

イ　カウンセラー委員会が特別教育推進を担っているが、十分に機能を果たせていない。特別支援教育コーディネーター並びに養護教諭、スクールカウンセラーを中心に教員間の連絡・協力体制を強化し、特別支援学校や外部諸機関との連携を保ちながら、特別支援教育を推進する。

ウ　年２回の授業公開以外に、外部の方に学校公開する機会をなるべく多く創出し、外部との接触を通して社会のルールやマナーを知ることや自他を尊重する心の大切さを学ぶことの契機とする。

エ　学校からの積極的な情報発信に努め、保護者との連携をより強化していく方策を検討する。

**４　進路指導**

**（１）成果となった実績**

ア　株式会社イニシャルや日本ファンドレイジング協会、アンビシャス制作委員会等の民間企業と連携した「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」を展開し、進路を実現するための意欲と、正しい就労観や勤労観についての意識を高めるための教育活動を行うことができた。

イ　就職活動のスケジュールに合わせて、４年生では複数教員により個人面談等を繰り返し行い、自立に向けての意識の高揚を図るための努力を行うと同時に、ホームルームや総合的な探究の時間においても卒業後の進路を意識した指導を継続した。

ウ　Ｃ４thの導入後、調査書の発行、就職手続き等、事故無く円滑な業務遂行を実現した。

**（２）課題となった問題点**

ア　発達障害や学習障害の傾向がある生徒対応として、療育手帳取得に向けた具体的な就労支援や進路先の確保を行う。

イ　外国にルーツのある生徒への就労ビザ取得に向けた支援や進路指導について検討する。

ウ　関係諸機関と連携した進路説明会を計画的に実施し、進路に関する情報を積極的に提供することで、生徒の進路意識を高める。

エ　本校卒業生による就職・進学体験談を披露するトークライブを開催し、進路行事の拡充を図る。

## ５　特別活動・部活動

### （１）成果となった実績

ア　学校行事や部活動の活性化を図るべく、全日制の文化祭に定時制生徒も参加させた。特に公演を行った軽音楽部が外部からも高評価を得たことで、生徒の学校生活に対する意欲は大きく向上した。また、大崎高等学校として全生徒・全教職員の一体感も生まれた。

イ　品川区防災まちづくり部並びに所轄消防署との緊密な連携により、夜間における防災訓練と救急救命訓練を実施し、防災に対する意識を効果的に向上させることができた。

ウ　「デフリンピック」（バスケットボール）への観戦を通して学校における体験活動の充実を図った。校外の公共の場での体験を通して、社会性を身につけることができた。

エ　「芸術鑑賞教室」への参加を通して芸術の魅力や楽しさを味わうとともに、豊かな情操を培った。

### （２）課題となった問題点

ア　生徒数減少により生徒会の活動自体が大きな制約を受けて、生徒会主催の文化的行事が極めて少ないのが現状である。今後はより一層の学校行事の拡充化が喫緊の課題である。

イ　部活動の入部率が全校生徒８０％で昨年度７２％より増加したが、これは今年度卒業した生徒を含んだ数字である。部活動入部率向上に向けた啓発を積極的に行うと同時に、生徒の意欲に適切に応えるために外部指導員を活用する等の指導の充実を図ることが重要課題である。

ウ　児童センター館や近隣施設（エコルとごし）等を活用した地域交流やボランティア活動の充実を図る。

## ６　重点目標の設定と方策（数値目標）

| | | | |
|---|---|---|---|
| ○生徒の学校満足度（本校に入学してよかったと思える生徒） | | 82.1% | （学校経営） |
| ○授業改善 | やる気の出る授業創造を目指した改善 | 全教科 | （学習指導） |
| ○授業観察 | | 年２回 | （学習指導） |
| ○授業改善 | 授業満足度の向上 | 満足度 89.3% | （学習指導） |
| ○学校の DX 化 | オンラインによる授業実践 | 全教科各２回 | （学習指導） |
| | 採点システムの利活用 | 全教科導入 | （学習指導） |
| ○生活指導 | 教育相談体制の充実 | グループエンカウンターの実施年２回<br>ＳＣによる面接年２回 | （生活指導） |
| ○生活指導 | 中退率の低下 | ２名 | （生活指導） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ○特別活動 | 学校行事の満足度 | 85.7% | （生活指導） |
| ○進路実績 | 卒業時の進路決定率 | 100% | （進路指導） |
| ○進路指導 | 社会的自立的支援プログラム | 年３回 | （進路指導） |
| ○ライフ・ワーク・バランス | 残業１時間以内設定日 | 年間１２回 | （学校経営） |